

非木材利用促進に向けた第1回アワード表彰式 — GOLD賞に福島梓氏の「竹取の宝」—



非木材グリーン協会会長・門屋氏

NPO法人非木材グリーン協会は10月27日、東京都目黒区のポワソングラブル自由が丘で「非木材グリーン協会アワード」表彰式を開催。グランプリであるGOLD賞は、大学院生の福島梓氏による「竹取の宝」が受賞した。

このアワードは未利用非木材素材を活用した作品を広く募集し、顕彰することで非木材の認知度をさらに高めるとともに、それらをアート作品として評価するだけでなく、ビジネスにもつなげていくことで環境負荷低減に向けた未利用非木材の新たな展開を図ろうと企画されたもの。

なお、作品の制作にあたっては協会指定の素材として、

(1) 紙

① サトウキビバガスパルプ使用；バガスセントCoC（バガスパルプ30%以上）▷グレートバガス（同10%以上）▷ニュース（同20%以上）

② タケパルプ使用；竹紙100ナチュラル（国産タケパルプ100%）▷竹紙100ホワイト（同）

③ オイルパーム（油ヤシ）空果房パルプ、クマザサパルプ、緑茶茶殻使用；平判原紙パームヤシックスペーパー（油ヤシ空果房パルプ）、ササックスグリーン（クマザサパルプ）、ティーリミックス（緑茶茶殻）▷Gフルート段ボール（両面シート、表面：パームヤシックス/ササックスグリーン/ティーリミックス）▷Gフルート段ボール（片面シート、波面；同）

(2) パルプ

① サトウキビバガス

② オイルパーム（油ヤシ）空果房

を使用することとし、エントリーは今年2月より開始。作品は6月に協会へ提出され、9月に行われた審査会において、創造性、意匠性、斬新性、独創性などを基準に下記の受賞作品が選出された。

・GOLD賞（賞金20万円）、審査員特別賞（同

2万円）；福島梓氏「竹取の宝」

本文・表紙ともすべて竹紙を使用。表紙にはさまざまなパターンの漆加工を施したほか、素材自体にあらかじめシワをつけるなどでバリエーションをもたせた。漆ならではの素朴な和のテイストと高級感を巧みに紙製品へ取り込んだ作品。ちなみにタイトルについては、竹の有効利用に取り組む中越パルプへのリスペクトも込め「宝」にしたという。

・SILVER賞（同10万円）；渡邊厚氏「浮雲 - Bagasse Cloud」

グレートバガス、ニュース、サトウキビバガスパルプ使用。円形および4つの円をつなげた幾何学図形のパーツを組み合わせて壁面を裝飾するオーナメント。光の当たり方によって表情がさまざまに変化し、空間そのものを演出する。

・BRONZE賞（同5万円）；田淵萬坊氏「おもむすびライト」

竹紙、グレートバガス、サトウキビバガスパルプ、オイルパーム空果房パルプを使用。柔らかくもみほぐした紙でライトを包み、おもむすび型（三角形）に結び合わせたライトで、点灯すると紙に施された文様が柔らかく浮かび上がる。

・協会賞（同1万円）；森島一徳氏「児童用椅子」

ササックスグリーン、ティーリミックス、サトウキビバガスパルプ、オイルパーム空果房パルプ使用。パーツを組み立てるだけの設計となっているため子供でも簡単に作ることができ、着色なども自由に行える。また、角を極力なくすなど安全性にも配慮。

〔審査委員〕

委員長；高橋正実氏（デザイナー、MASAMI DESIGN 経営者）

委員；山本コテツ氏（空間プロデューサー・山本コテツ事務所）、大野勲男氏（プロカメラマン・シーン経営者）、東白英氏（クリエイティ

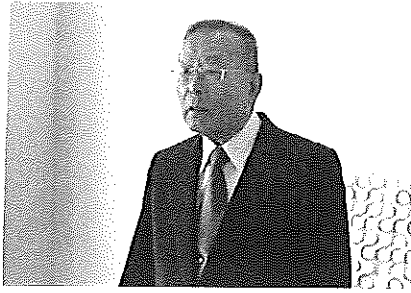
ブディレクター・ホワイトファットグラフィックス経営者）、門屋卓氏（非木材グリーン協会会長・日本包装技術協会日本パッケージングコンテスト審査委員長）



なお、表彰式では冒頭、同協会会長の門屋卓氏が挨拶した後、専務理事の守屋浩氏による経過報告が行われた。続いて門屋会長ならびに審査委員長を務めたデザイナーの高橋正実氏から表彰状が贈呈され、高橋氏が講評を述べた。各氏の発言要旨は次の通り。

門屋氏 当協会が発足して20年が経過したが、「非木材」という言葉は辞書などにも載っておらず、これをどのように説明し理解してもらうか、さらにはエコロジーな社会にどうやってつなげていくかはたいへん難しい問題である。われわれは機関誌の発行やイベント、講演会などを通じて一般への周知を行ってきたが、そうした試行錯誤を重ねるなかで最近になって新しい発想・視点からPRできないかと考え「非木材グリーン協会アワード」を企画した。本日その表彰式を迎えられたことは協賛・賛同いただいた方々のお陰であり、改めて厚く御礼申し上げます。

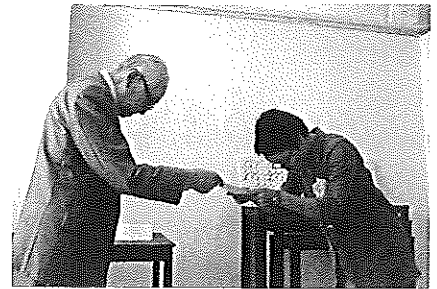
守屋氏 本アワードは非木材製品を広く流通させること、および非木材グリーンマークの更なる普及を目的として実施した。背景として、われわれは展示会やイベントでデザイナーの方々と接する機会が少なくないが、非木材製品についてあまり知られていないことがあった。このため、まず非木材ならびに非木材製品、とくに紙製品をデザイナーなどに紹介し、これらを素材として作品をつくってもらう。さらに、できあがった作品については企業に提案し、ビジネスに結びつけたいと考えた。



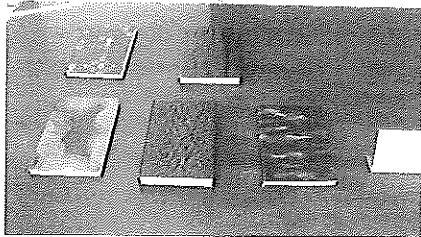
経過報告を行う専務理事・守屋氏



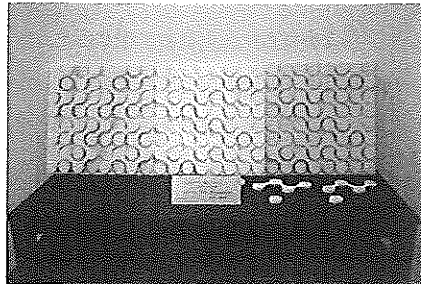
審査委員長を務めたデザイナーの高橋正実氏



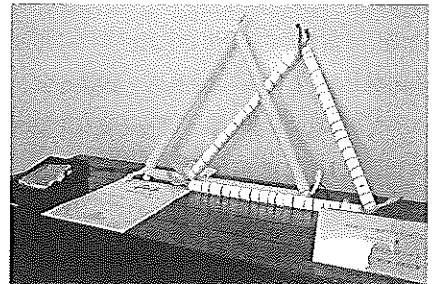
門屋会長から表彰される福島梓氏 (GOLD 賞)



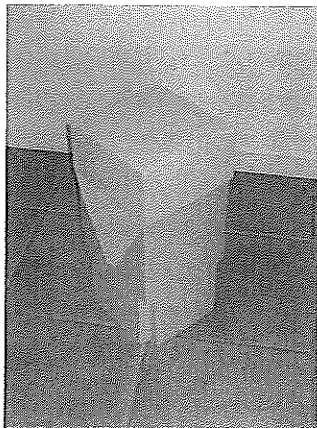
「竹取の宝」



「浮雲 - Bagasse Cloud」



「おむすびライト」



「児童用椅子」



記念撮影 (前列左より受賞者の森島氏, 福島氏, 渡邊氏, 後列左より高橋審査委員長, 門屋会長, 同協会監事・富家博之氏, 守屋専務理事)

昨年6月に協会の運営委員会の下部に宣伝企画委員会を設置してスタートし、メンバーとしてオー・ジー、クラウン・パッケージ、中越パルプ工業、平和紙業の4社に参加いただいた。初めての経験のため暗中模索ではあったが、募集要項、チラシ、見本帳などを作成し、今年2月にアワードの実施を公表。これにともない協会のウェブサイトに特設ページを開設し、フェイスブックやツイッターなどの活用も試みた。一方、チラシや案内状をデザイナー事務所や美術系の大学・専門学校、会員企業などに配布して作品の応募を呼びかけた。募集期間は2～5月、作品提出を6月とし、9月に審査委員会を開催して今回の受賞者が選

出されたわけだが、応募点数は多くはなかったものの非常に中身の濃い、優れた作品が集まったと自負している。

高橋氏 非木材の可能性を追い求める第1回アワードの作品審査ということでワクワクしながら審査に臨んだ。いずれの応募作品も奥の深い、意味のある内容であったことは大きな驚きと喜びであった。

このうち GOLD 賞の「竹取の宝」では新しい技術の創造のようなことが行われており、魅力とともに非木材の可能性を強く感じた。私は江戸時代後期～明治初期の産業に高い関心をもっており、そのころ漆工家・柴田是真による紙に漆を塗る技法が注目され、バリ万

博などにおいては日本の産業が海外に打ち出していく技術の1つとして位置づけられていた。当時、すでに非常に凝ったものが手づくりで世の中に登場していたわけだが、そういった技術が最近ではなかなか見られなくなっているなか、「竹取の宝」からは作者の技術に対する熱心な探求、さらには竹紙のこれからの展開の道を探っていこうとする姿勢が伝わってくる。審査の後日、福島氏がいろいろ研究を重ねて今回の作品に至ったとの話を聞いたが、そういう方に第1回 GOLD 賞を贈ることができ非常に嬉しく思う。

SILVER 賞の「浮き雲」は建築という世界に紙を取り込み、誰でも楽しみながら空間を構成できる作品で、非木材という存在を広く知らせることができ、素敵に組み合わせられるパーツの構成には「紙だからこそ」の可能性を感じた。また、「おむすびライト」は素人でもインテリアとして楽しむことができ、同時に紙の良さをアピールしている。「児童用椅子」は紙のもつ「強度」を明確に伝えており、今後デザインのバリエーションが出てくることが期待される。

審査を通じ、どの作品からも作者の真摯な思いを感じ取ることができた。受賞された方々は今回の受賞で終わりにせず、これを誇りに引き続きたくさんアイデアを生み出されていくことを願っている。